

普及活動情勢報告

情勢報告（平成26年5月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

ニラ新技術の実証試験の中間報告（5月1日）。



青壮年部会（21名）総会において、本年度の炭酸ガス施用及びLED電照栽培の実証試験の中間報告を行いました。これまでの結果では両技術とも増収傾向が見られ、参加者の関心も高まりました。

炭酸ガス実証は担当農家からは、「厳寒期の葉先の黄化対策が必要。生育が速くなり規模が小さい人には良いのでは。灌水量を多くしないといけないので、灌水チューブは必須」等の意見が出されました。

栽培終了時には、費用対効果を含めた最終的な実証取りまとめを行い、再度報告会を開く予定です。

J A 四万十夏秋ピーマン部会栽培講習会（5月21日）



夏秋ピーマン部会は25年度に販売額1億円を突破しました。その勢いに乗って、26年度は新規栽培者13名を加え50名になりました。

当日は、新規栽培者を含む33名の参加があり、販売情勢報告、部会長からの市場視察報告の後、JA営農推進課と普及所から農薬の安全使用、病虫害防除についての講習を行いました。

今後は、現地検討会を中心に出荷量拡大に向けた指導を行う予定です。

大豆作業栽培講習会（4月30日）



四万十町窪川地域は県下でも有数の大豆産地で、今年の栽培予定面積は61haです。主な作業を受託しているJA出資型法人「営農支援センター四万十（株）」とJA、普及所が連携して栽培講習会を開催し16名の参加がありました。

講習会では、支援センターが作業料金について、JAが作業受委託の仕組みの変更点について、普及所が栽培暦について説明を行いました。

今年から農家が基本作業を行うことになったことから、肥培管理等についての質問がありました。今後も関係機関が連携して生産量の増大に取り組んでいきます。

栗の接ぎ木指導（4月24日）



四万十町下津井地区の「四万十の栗再生プロジェクト推進協議会」で特選栗の認定を受けている園地で4名に対して接ぎ木の指導を行いました。

対象園地では、一部で結実量が少ない所があり、その要因として受粉樹となる品種が周囲にないことが考えられました。そこで、結実量の向上のため、受粉樹の接ぎ木を行うことになりました。

接ぎ木指導では、実技と共に接ぎ木に関する基礎知識と最近のトピックスについて情報提供を行いました。指導後は、手分けして接ぎ木作業が行なわれました。

今後も栗の生産量の向上に向けた支援を行っていきます。